

未来志創

よっしゃ！顔晴ろう！

毎日、体育大会の練習が続いており、昨日は3年生の先輩方や手伝ってくれていた2年生の協力もあり、グラウンドで競技練習や全体練習、団活動を行うことができました。感謝です！！ただ、だいぶ疲れも溜まってきていると思います。本番に向けて、無理せず体調管理に努めてくださいね。

さて「体育大会だからこそ…」というわけではありませんが、練習で話されたこととも繋がるので紹介します。よりよい体育大会にするヒントも隠されていると思います。

厳しくも温かい「武士道」のしつけ

武士の娘だった祖母のしつけでまず思い出されるのは、「表情」「姿勢」「返事」です。これに関する祖母の言葉をご紹介します。

①「いつでもよいお顔でおりなさい」

つまらないことや嫌なことがあると、すぐに顔に出ていませんか？ 私は幼い頃、少しでもつまらなそうな顔をしていると、すぐさま「どんなお顔をしているか、鏡を見てごらんください」と諭されていました。「周りの人がいつでも快くいられるように、そこに自分の気持ちを向けなさい。自分のわがままで気分をあからさまにするものじゃない」と。

そして、こうも教えられました。

「笑顔のいい人というのは、相手を大事にする心を持っている。人を思いやることができれば、人からも大事に思ってもらえる。人を大事に思える人、大事に思ってもらえる人におなり」

②「どんなつもりで生きているのか、姿勢を見れば分かります」

表情と同じくらい口酸っぱく教え諭されたのは姿勢のことでした。5歳くらいの子どもに「どんなつもりで生きているか」なんて言われても、ちょっと早いんじゃないかと思うときもありますけどね(笑)。そういう意味では、私はあまり子ども扱いされませんでした。

「人生をどう受け止めてるのか、姿勢を見ればおおかた分かるんだよ。そのうち、たぶん分かるようになるだろう。分かるようになってほしいものだね」

幼いながらも「人生」という言葉の響きをそれなりに受け止め、いっそう背筋を伸ばしたものでした。

祖母は最後までちゃんとしておりました。その姿を思い出すと「生きる覚悟が自分とは全く違っていった」と感じます。

自分の貫くべきを貫いて、「人生は一度きりなんだから、こう生き抜くんだ」という覚悟の心が、姿勢や立ち居振る舞いに出ていたなどあらためて思います。

③「返事一つで人となりが分かります」

なにか言いつけたとき、お子さんが「はい！」と元気よく返事すると気分がいいですね。でも、すごく嫌そうに「えーっ」と言ったり、あるいは馬鹿にしたように「はいはい」と返事をする、やっぱり親ながらムッとするものです。

姿勢でも表情でも人となりは分かるものですが、返事は「はい」というたった2文字で分かってしまうのです。

職場にもいませんか？ とても気持ちのよい返事をする人と、「この人には頼みたくないな」と思うような返事しか返ってこない人と。人柄が表れるってそういうことなんです。祖母はこう言っていました。「おばあちゃんね、お返事を聞いただけで、たいいていのことは分かってしまう。気持ちのよい人は気持ちのよいお返事をする。自分がどんな声で、どんなふうにお返事してるか、『はい』と言ったその声をちゃんと聞いてごらん。そして、おかしい返事だったら、おかしい心をなおすのです」

気持ちを切り替える、ということでしょう。その時の自分の気分を引きずりながら返事することは、相手に憂鬱という名のボールを投げるようなものです。

子どもに「ちゃんとお返事なさい」と教える上では、母親がまず爽やかな返事のできる人でありたいものです。

『みやざき中央新聞(2677号(2017/01/01))文筆家 石川真理子より』

自分もまだまだできていないことがたくさんありますが、この3つを大切にしていきたいと思います！！
今日も顔晴るぞ！よっしゃ！！！！